



伝統と今を大切に

堅川中だより

第4号

令和6年7月1日
墨田区立堅川中学校
発行 校長 稲垣 吉実

「ここ一番」に強くなろう！

今日は、「ここ一番」という話をします。今後大きく影響を及ぼす重大な場面を、「ここ一番」といいます。「ここ一番踏ん張る」とか「ここ一番の大勝負」という風に使いますね。

そんな「ここ一番」の場面に出くわしたときに、必ず二通りのタイプの人がいると思います。一つは、そんな時に自分の能力を最大限に出せる人。もう一つは、ここ一番というときに限って、能力を発揮できない人です。皆さんはどちらのタイプでしょうか。私はこの違いはいったいどこにあるのだろうと考えてみました。

「ここ一番」というときに、はじめから何も準備や練習をしなければ、能力を発揮することはできませんが、自分が頑張って一生懸命に練習や勉強に取り組んだのに、「ここ一番」の場面でうまくいかないのは、やはり、「駄目かもしれない」「また失敗するかもしれない」「失敗したらどうしよう」といった、弱い気持ちが働いているのだと思います。

だから、ここ一番の大勝負に出るときは、自分に対して自信を持つことが大切です。「自分はできる」「ここまで頑張ったのだからできないはずがない」とか「もうどうにでもなれ」「こんなに頑張ったのだから悔いはない」「後はどうにでもなれ」というような開き直る気持ちも大事かもしれません。私はここ一番の場面では、できるだけこう考えるようにしています。

それでは、「ここ一番」の時に強くなるためにはどうしたらいいのでしょうか。私は大学の時にサッカーの先生から教えてもらったことがあります。それは、「失敗してもめげずに頑張ろうとすること」「失敗しても人の所為にならず、謙虚な姿勢を持つこと」「常に上には上があると思い頑張りを続けること」が大切だと教えてもらいました。

皆さんも、勉強やスポーツや人前での発表など、これから今後大きく影響を及ぼす「ここ一番」という場面がたくさんあると思います。たとえば今週に控えている前期中間考査や部活動の試合などがそうかもしれません。

とにかく、「ここ一番」の場面で力が発揮できるよう、「不可能なことは何もない」「やればできる」という自信、すなわち自己肯定感をしっかり持って頑張ってください。堅川中の生徒全員が「ここ一番」強くなれるよう期待しています。

7月の予定

1	月	朝礼(表彰)
2	火	
3	水	定例・代表委員会
4	木	避難訓練
5	金	
6	土	第1回数学検定
7	日	
8	月	生徒朝礼
9	火	職員研修
10	水	職員会議 NO 残業DAY
11	木	租税教室(3)
12	金	救急救命講習①(1) セーフティー教室
13	土	土/授業 道徳授業地区公開講座
14	日	
15	月	海の日
16	火	救急救命講習②(1)
17	水	三者面談①(始) 部活動再登校
18	木	三者面談② 部活動再登校
19	金	夏季休業前指導 安全指導 職員研修 部活動再登校
20	土	
21	日	夏季休業日始
22	月	夏季学習教室(始) 夏季水泳教室(始) 三者面談③
23	火	三者面談④
24	水	三者面談⑤(終)
25	木	
26	金	夏季学習教室(終) 夏季水泳教室(終)
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

※ () 内の数字は学年や5組をあらわしています。 例 (5) : 5組

【1学年】

素晴らしい晴天の中、第78回運動会が実施されました。これまでクラスや学年の練習で得られた成果を充分に発揮できた1年生は、この大きな行事を通してたくさんのことを学ぶことができました。体育の授業で取り組んだ振り返りの作文を少しずつ紹介します。

- ・今回の運動会で分かったことは、勝っても負けても一生懸命取り組んだことが、一番の思い出になると思った。運動会以外でも団結力とか必要な事があると思うから、そういうときは運動会のときよりも頑張りたい。
- ・自分のチームが勝って「やったー」で終わりじゃなく、まだ頑張っている他のチームも全力で応援しました。来年は2年生として後輩に背中を見せられるような、感動させられるような演技にしたいです。
- ・残念ながら優勝はできなかったけれど、これまでの過程や予行練習、当日を含め、全員で楽しく、時に怒られながら過ごせたことが、僕は一番良かったことだと思っています。来年は優勝できたらいいなと思っています。
- ・私はたとえ勝てなかったとしても、みんなで協力し記録を更新して、喜び合えたことがみんなの仲を深めるために大切だと思いました。たくさん応援して喉がかわれたけど、最高の運動会にできたと思います。
- ・練習を重ねていく上で自然と応援が増えていき、より頑張ろうという気持ちが大きくなりました。1人1人が適当にやるよりも全力でやった方が楽しいし、やりがいがあると思います。みんなの心が運動会を通じて一つになれて嬉しく、よかったです。
- ・運動会実行委員になり、運動会が近づくにつれて、することが増えて大変だった。前日準備も、トラックのライン消しもとても大変だった。それでも、来年も実行委員になりたいと思った。来年こそ、表彰式の時に賞状や金の盾を受け取りたいです！

【2学年】

～運動会作文紹介その①～

運動会で感じたこと

2年3組 安井 佐奈

私が運動会で特に頑張ったのは大縄です。予行や練習のときから3組はあまり記録がよくなかったので、どうしたらたくさん跳べるか悩みました。「しっかり声がでていない」「引っかかったら後ろを振りむいたり、喋ったりしてしまう人がいる」「縄をしっかり見て跳んでいない人が多い：などの反省が3組で話し合った結果出たので、このことを意識しながら本番を頑張りました。運動会前には「もっと作戦会議しようよ」「もっと工夫できるところはある？」など言っている人が何人もいて、積極的に真面目にみんなで頑張ろうと熱くなれるクラスでとてもいいなと思いました。本番では徒競走や大縄の記録があまりよくなかったけど、それで誰かを責めるなどせず、みんな最後まで頑張っていていいなと思いました。

結果は4位だったけど、クラスみんなで協力・団結して盛り上がった運動会でとても楽しく、良い思い出になりました。クラスのみんなや先生も「よく頑張ったよ！！」などと言ってくれて、良い雰囲気運動会を終えることができ嬉しかったです。

他にも図書委員会での係の仕事がありました。慣れない仕事で大変だったけれど、係のメンバー同士で仲が深まったと思いました。来年はダンスをするので、それがとても楽しみです。また、中学校最後の運動会になるので、より気合を入れて、全力で取り組んで来年も最高の運動会にしたいです。



【3学年】

<学校行事で子どもが変わる >

学校行事をとおして、子ども達は高い目標に向かって努力すること、仲間と心を合わせて協力してやり遂げることなど、人として大切なことを学んでいきます。勉強も、スポーツも、運動会などの学校行事もみんなそうですが、一生懸命頑張るから大変で、手加減したりあきらめたりしたら楽かもしれません。でも、高い目標に向かい、みんなで心を合わせて、大きな努力を積み重ねてやり遂げた後に待っている、あの感動、あの達成感、やり遂げた人にしか分からない、苦しんだ人にしか分からない素晴らしい世界なのではないでしょうか。

今回の運動会で運動会実行委員、ダンス実行委員など、各部門でそれぞれが以下のことを頑張っておりました。

- ・クラスみんなで練習をがんばらせること。
- ・前日までの準備を始め、みんなをまとめたこと。
- ・みんなの先頭に立って声を張り上げ、静かにさせようとしたこと。
- ・原稿を自分たちで作って 選手宣誓や競技上の注意など、開閉会式の練習に励んだこと。

子ども達の自己有用感を育むことが、各中学校における課題の一つになっています。全ての子ども達が、学校行事だけでなく、勉強や部活動などの学校生活で大きな感動や達成感を積み重ねて、自分自身の成長へつなげていってほしいですね。

【5組】

運動会は、競技・応援・進行・準備・片付けなど、委員の生徒だけでなく、全校生徒が主体的に参加した、素晴らしい運動会となりました。5組生徒は、各学年の1・2・3・4組の交流学級に入り、各競技で競いました。練習を何回も重ね、交流学級での心温かい声かけや励ましもあり、当日は全力を出し切ることができました。以下、生徒作文です。

『中学最後の運動会』

6月8日土曜日に、私たち3年生にとって中学校最後の運動会をやりました。私は、4組の人たちと一緒に運動会をやりました。

私が運動会で一番うれしかったことは、全員リレーです。練習の時よりも速く走ることができました。また、練習の時は4位だったのが、本番では2位になることができたので、とてもうれしかったです。

二番目は、父と兄が見に来てくれたことです。知っている人が見に来てくれたことが、うれしかったです。まだうまくおどれていないダンスを見られたのは、正直はずかしかったです。

最後の結果発表で、3学年で4組が1位になることができて、とてもうれしかったです。最後の運動会でゆうしょうできて、私にとっては最高の思い出になりました。これまでの三年間で1位になったことはなかったけど、最後の年に1位になれてよかったです。

【食育】 夏休みに梨をむきませんか

3年の家庭科の実技テストでりんごの皮むきをしました。1人1/4にカットしたりんごの芯と皮を2分でむきます。生徒にはあらかじめ、私が解説しながらむいている映像を油井先生が撮影し、配信しています。

包丁はもちろん使い方を誤れば手を切ったりけがをしたりします。怖さが勝って切っ先でえんぴつを削るように皮をむこうとしたり、思い切りが良すぎて芯を真っ二つにしてしまったりする生徒もいました。

包丁は私たちの生活の中でとても身近な道具で、さかのぼれば石器時代から使われています。おそらくこれから先もなくなることはない道具かと思います。料理が好きか嫌い、上手いか下手かは人それぞれですが、包丁や刃物の仕組み、料理のタスク管理などはあらゆることに通じています。夏休み後半になればりんごに似た梨が出回るので、家で少し触れてみてもらうのはいかがでしょうか。